

# AX-900

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

# 特長

このたびは、ヤマハ・プリメインアンプ AX-900 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。AX-900 の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前に、ぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## 目次

特長 .....	1
豊かなオーディオライフのために .....	2
接続のしかた .....	3
• レコードプレーヤーの接続 .....	4
• CD プレーヤー、チューナー、その他AV機器の接続 .....	4
• テープデッキの接続 .....	4
• プリアウト-メインイン端子の使用 .....	5
• スピーカーコードの接続 .....	5
各部の名称とはたらき .....	6
操作のしかた（再生） .....	9
操作のしかた（録音） .....	10
• テープのダビングについて .....	10
• 多機能な REC OUT セレクターについて .....	11
故障かな、と思ったら .....	12
参考仕様 .....	13
ブロックダイアグラム .....	15
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	16

### ● 超低インピーダンス対応

スピーカーシステム駆動時のダイナミックな負荷変動に対し、充分駆動できるように電源部を強化。大型トランス（重量 7 kg）と 22,000  $\mu$ F $\times$ 2 の大容量電解コンデンサーを組合せ、そして、さらに内部配線にはロス抵抗の極めて少ない、超極太ケーブルと、バスバーの採用により、徹底して超低インピーダンス再生能力の向上を図りました。ダイナミックパワー-650 W/1  $\Omega$  という大出力を実現。

### ● CD DIRECT 専用プリアンプ搭載

コンパクトディスクのハイクオリティデジタルサウンドを、より良い音で楽しんでいただくため、CD プレーヤーとパワーアンプ部を CD 専用プリアンプで直結する CD DIRECT スイッチを装備。

### ● 新開発 ALA (Absolute Linear Amplification) 回路搭載

パワー段での有害なクロスオーバー歪・スイッチング歪を理論上発生させない新回路搭載。入力信号と出力信号をリアルタイムに監視(比較)し、両信号の関係がリニアになるように働きます。しかもスピーカーシステムから発生する逆起電力の影響も内部的に吸収し、入力信号に忠実に低音域から高音域までダイナミックに再現します。

### ● 本格的セパレート構成

単独使用でも十分な性能のプリアンプ+メインアンプの本格的セパレート設計。そのうえパワーアンプの電圧変動にもプリアンプに影響を与えないよう、電源部もプリアンプ用とパワーアンプ用の電源を別々に搭載し、ダイナミックレンジの広いソースにも安定した音が楽しめます。

### ● 豊富な付属機能と多機能な入出力

トリプルアクションやテープのダビングが可能な 2 系統独立 REC OUT セレクター、低音・中音・高音が別々に調整できる 3 バンド・トーンコントロール、不要な超低音のノイズを取り除くサブソニックフィルター、グラフィックイコライザーやサラウンドアンプ等の接続に便利なプリアウト-メインイン端子、さらに AV 機器などにも対応できる 7 系統入力と充分な機能を備えています。

# 豊かなオーディオライフのために

## 高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



## ほこり・水気をさけて！

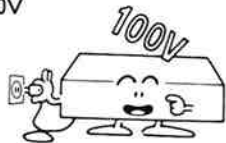


## 不安定な場所をさけて！



## 国内のみ使用可

家庭用電源コンセント  
AC100V

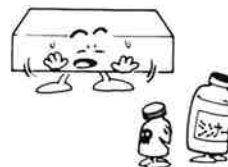


## 雷が近づいたら

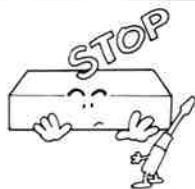


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 薬物厳禁



## 開けないで！



## 引っぱらないで！



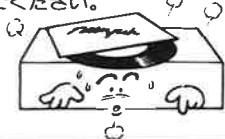
## 保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

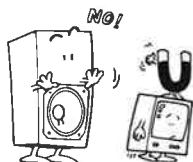


## セット上面の通風孔をふさがない

放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



## 磁気・テレビはさけて！



## こわれた？



12ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

## 取扱説明書はかならず保管してください。

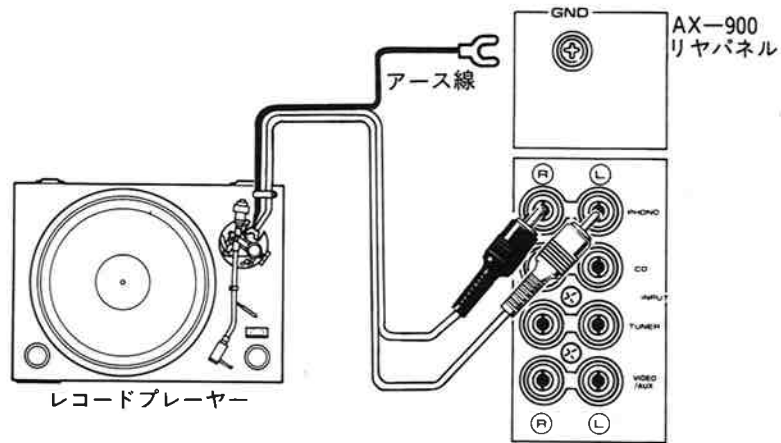


ファイルなど



### ■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードを PHONO 端子にしっかり差し込んでください。アース線は GND 端子に確実に接続してください。

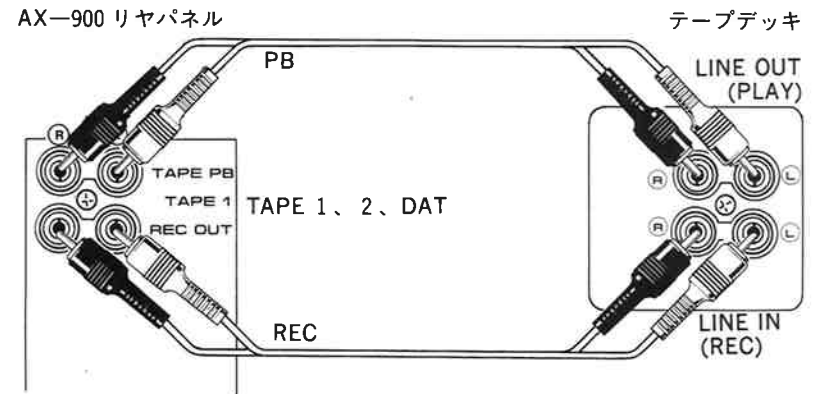


### ■ CD プレーヤー、チューナー、その他 AV 機器の接続

コンパクトディスクプレーヤー (CD) は CD 端子に、チューナーは TUNER 端子に、その他ビデオ機器の音声出力その他オーディオ機器は VIDEO/AUX 端子に、それぞれ確実に接続してください。

### ■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2、DAT 端子にテープデッキが合計 3 台まで接続できます。



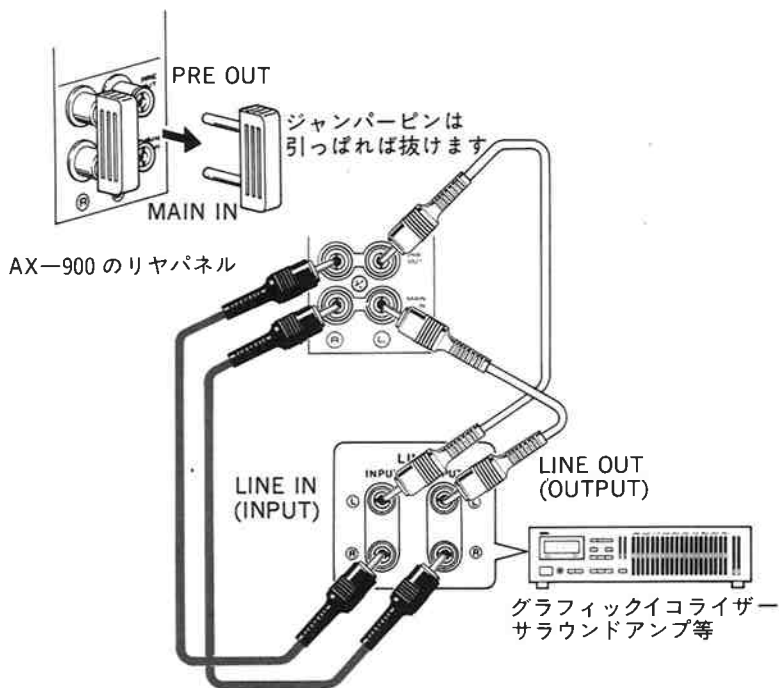
それぞれ確実に接続してください。

## ■プリアウト-メインイン (PRE OUT-MAIN IN) 端子の使用

プリアンプ部とメインアンプ部を切りはなし、各部別々に使用するための端子です。グラフィックイコライザー・サラウンドアンプ等を使用するとき接続すると便利です。

通常プリアウト-メインイン端子を使用しないときは、ジャンパーピンを差し込んだままの状態でご使用ください。

グラフィックイコライザー・サラウンドアンプをプリアウト-メインイン端子を使用して接続する場合は、ジャンパーピンを抜き取り、下図のように、ジャンパーピンで接続してください。



## ■スピーカーコードの接続

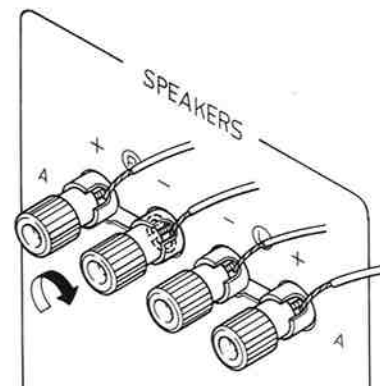
SPEKERS A の㊸側端子に右側スピーカーシステムを、㊹側端子に、左側スピーカーコードを接続してください。

アンプ側の+端子からスピーカーシステムの+端子へ、アンプ側の-端子からスピーカーシステムの-端子へ極性を間違いないよう、確認して接続してください。

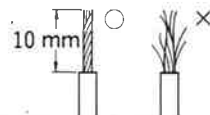
SPEKERS B も SPEKERS A と同様にもう一組のスピーカーシステムを接続することができます。

※極性を間違えた場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた、不自然な再生音となることがあります。

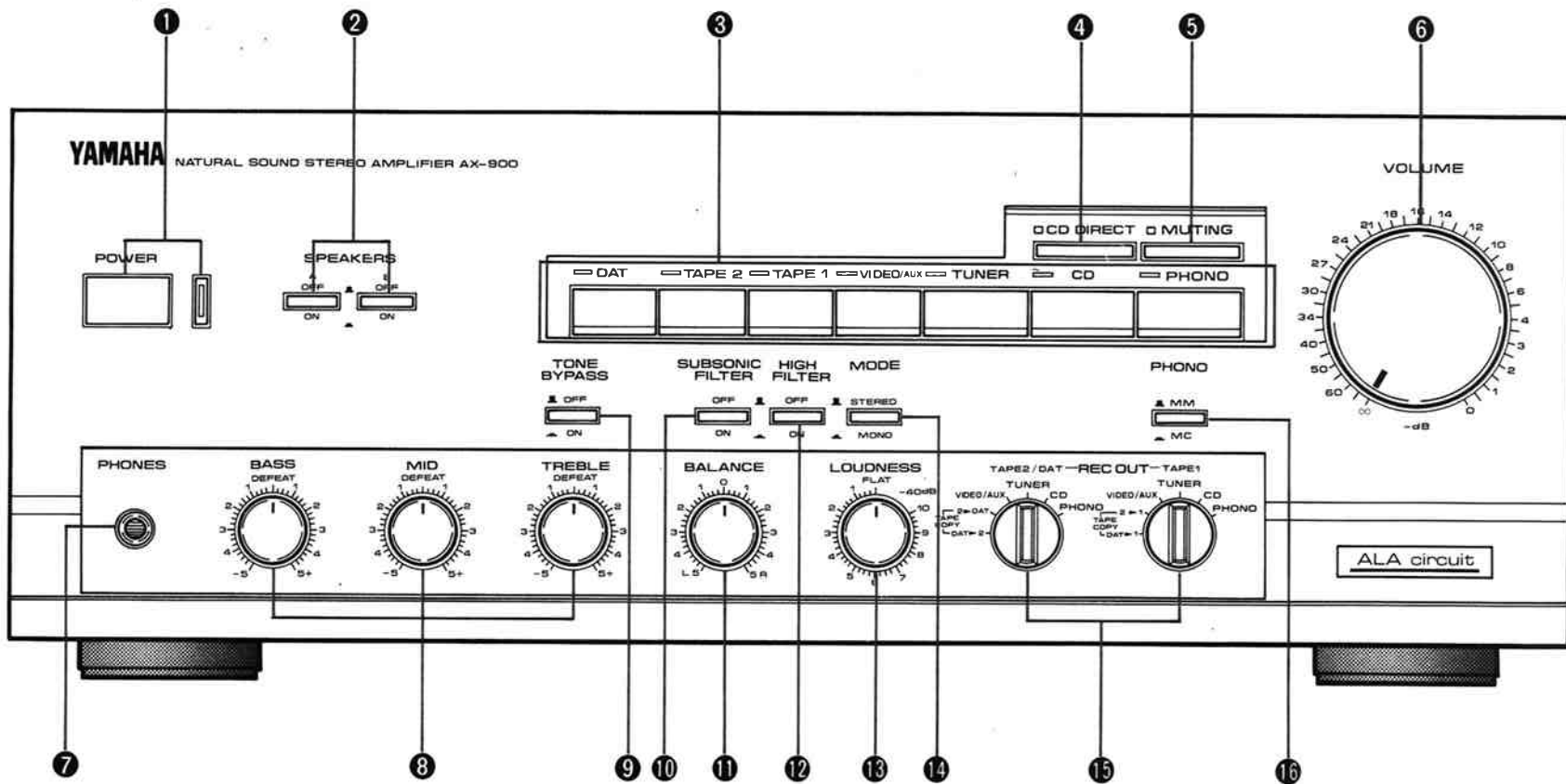
A, B 単独使用の場合は、インピーダンス 6~16Ω のものを、2 組同時使用の場合は、各インピーダンスが 12Ω 以上のものを使用してください。



スピーカーコードの先端の絶縁部を 10mm 位はがしてください。芯線がバラけてショートしやすいため、手でしっかりよりを掛けてから、スピーカー端子の穴に差し込み、締めつけてください。



# 各部の名称とはたらき



## ① パワースイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。電源が入るとインジケータが点灯します。電源を入れるときは、ボリュームつまみを必ず最小の位置“-∞”にしておいてください。電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働き、音は出ません。

## ② スピーカースイッチ (SPEAKERS)

本機に接続されたスピーカーシステム (A・B) を選択するスイッチです。Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。A・B両方のボタンを押すとA・B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

### ③ インプットセレクター

再生したいソースを選択するスイッチです。押すと選択したソースのインジケータが点灯します。

PHONO	レコードプレーヤーを再生するとき。
CD	CDプレーヤーを再生するとき。
TUNER	チューナー (FM/AM) を再生するとき。
VIDEO/AUX	ビデオデッキ・ビデオディスクプレーヤーなどの音を再生するとき。
TAPE 1	TAPE 1 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
TAPE 2	TAPE 2 端子に接続したテープデッキを再生するとき。
DAT	DAT 端子に接続したテープデッキを再生するとき。

### ④ CD ダイレクトスイッチ (CD DIRECT)

このスイッチを押すと、左のインジケータが点灯し、インプットセレクターに関係なく CD が優先されます。

また信号経路はサブソニックフィルター・トーンコントロール (バス・ミッド・トレブル)・ハイフィルター・ラウドネスなどの回路がパスされ、極めてシンプルな回路構成となる為、よりハイクオリティな、CD サウンドが楽しめます。

このボタンをもう一度押し、解除にしない限り、インプットセレクターで他のソースを選択しても入力ソースは切りませんので、ご注意ください。

### ⑤ ミューティングスイッチ (MUTING)

ボタンを押すと上のインジケータが点灯し、今まで再生していた音量レベルを 1/10 (-20 dB) に下げることができます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。電話の応対など、一時的に音量を下げたいときに便利です。

※ミューティングスイッチを ON にして音量を下げ、ボリュームツマミで音量を上げているとき、ミューティングスイッチを OFF にすると、急に 10 倍の音量になりますのでご注意ください。またスピーカーにも損傷を与えることがありますので、ご注意ください。

### ⑥ ボリュームツマミ (VOLUME)

音量を調整するツマミで、右に回すほど音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

### ⑦ ヘッドホーンジャック (PHONES)

ヘッドホーンを接続するジャックです。ヘッドホーンで聞くときは、スピーカースイッチを A・B ボタンとも OFF (■) にしてください。

### ⑧ トーンコントロールツマミ

#### ・バスツマミ (BASS)

低音域を調整するツマミで、右 (+) に回すほど低音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。

たとえば、バスドラムの音に迫力を出したいときに便利です。

#### ・ミッドツマミ (MID)

中音域を調整するツマミで、右 (+) に回すほど中音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。

たとえば、歌手や人の声を際立たせるときに便利です。

#### ・トレブルツマミ (TREBLE)

高音域の調整するツマミで、右 (+) に回すほど高音域が強調され、左 (-) に回すほど減衰されます。“DEFEAT”の位置で特性はフラットになります。

たとえば、ハイハットシンバルのような歯切れの良い音を出すときに便利です。

### ⑨ トーンバイパススイッチ (TONE BYPASS)

スイッチ ON (■) でトーンコントロール機能をパスし、トーンコントロールの各ツマミの位置に関係なく FLAT な特性でソースを聴くためのスイッチです。

### ⑩ サブソニックフィルタースイッチ (SUBSONIC FILTER)

スイッチ ON (■) で、通常は音楽再生に必要なない 15 Hz 以下の超低域をカットします。レコード盤のそりなどで発生するスピーカーのコーン紙のフラつきによる歪の防止ができます。

※レコード演奏のときは、スピーカー保護のため、このスイッチを“ON”にして使用することをおすすめします。



### ⑪ バランスコントロールツマミ (BALANCE)

スピーカーの左右の音量バランスを調整します。ツマミを右(左)に回すほど、左(右)の音が小さくなり、最後まで回すと右側(左側)のスピーカーだけになります。

バランス調整は、モードスイッチ(MODE)を“MONO”(■)にし、左右のスピーカーの音が中央から聞こえるようにします。調整後はモードを“STEREO”(■)に戻してください。

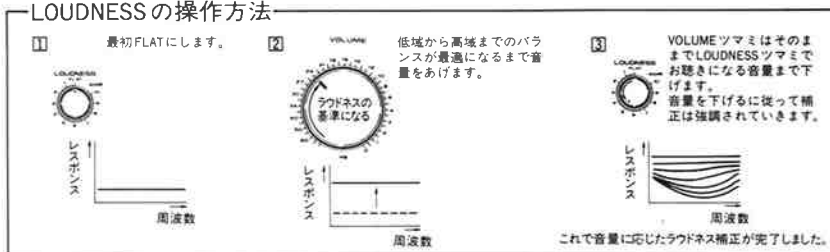
### ⑫ ハイフィルタースイッチ (HIGH FILTER)

スイッチ ON (■)で、10 kHz以上の高域をカットします。古いレコードのスクラッチノイズ(プチプチ・パチパチ音)や弱電界地域でのFM放送受信の際のシャーノイズ、AM放送受信の際の“キーン”という雑音の軽減に有効です。

### ⑬ ラウドネスコントロールツマミ (LOUDNESS)

人間の聴感、音量が小さくなればなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのが、ラウドネスですが、本機では聴いている音量レベルに応じ、補正に必要な量を継続的に得られることができるので、どの音量レベルでも低域から高域まで、不自然なく再生することができます。

#### LOUDNESSの操作方法



### ⑭ モードスイッチ (MODE)

プログラムソースの再生モードを、切換えます。

“STEREO”(■)では通常のスtereoで再生され、“MONO”(■)ではモノラルで再生されます。通常は“STEREO”(■)にしておきます。

### ⑮ レックアウトセレクター (REC OUT)

TAPE 1

TAPE 1に接続されているテープデッキに、録音したいソースを選択するスイッチです。

TAPE 2/DAT

TAPE 2・DATに接続されているテープデッキに、録音したいソースを選択するスイッチです。

これらのセレクターはインプットセレクターで選んだソースとは関係なく、別に録音するソースを選択することができます。

(詳しくは11ページの「多機能なREC OUTセレクターについて」をご覧ください。)

### ⑯ フォノセレクター (PHONO)

お使いのカートリッジのタイプにより切り換えてください。

MM型カートリッジ……MM (■)

MC型カートリッジ……MC (■)

の位置でご使用ください。

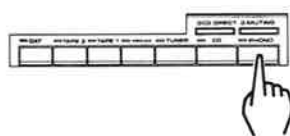
(なお高出力MC型カートリッジは、MM(■)ポジションで、ご使用が可能です。)

※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますので、カートリッジの取扱説明書をご参照ください。

# 操作のしかた／再生

1. 電源を入れる前に、アンプのボリュームは最小の位置 “-∞” になっているか確認してください。
2. 各機器の電源を入れてください。
3. スピーカースイッチで、希望するスピーカーシステム（AまたはB、あるいは両方）をON（■）にして選択してください。  
ヘッドホーンで聴く場合は、スイッチをA、BともOFF（□）にしてください。

## ●レコード再生の場合



インプットセレクターの  
“PHONO” のボタンを押す。

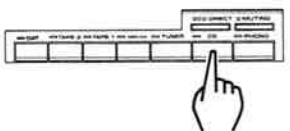


使用するカートリッジの  
タイプに合わせてMM/  
MCの切換をする。



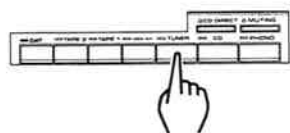
レコード盤にソリがある場合は、15  
Hz以下の超低域雑音を除去するた  
めにサブソニックフィルターをON  
にする。

## ●CD再生の場合



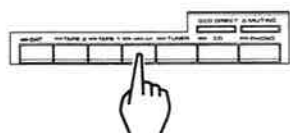
インプットセレクターの  
“CD” のボタンを押す。

## ●チューナー再生の場合



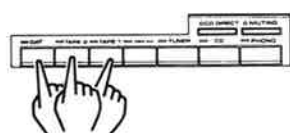
インプットセレクターの  
“TUNER” のボタンを押す。

## ●ビデオ機器などの音を再生する場合



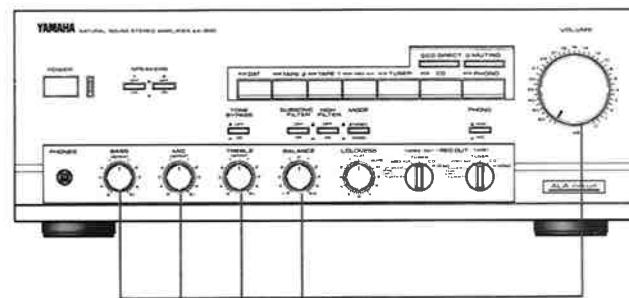
インプットセレクターの  
“VIDEO/AUX” のボタンを押す。

## ●テープデッキ再生の場合



インプットセレクターの、  
“TAPE 1、2、DAT”のボタン  
で再生したいデッキを選んで押す。

プログラムソースの再生を始めます。  
〔各機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照  
してください。〕



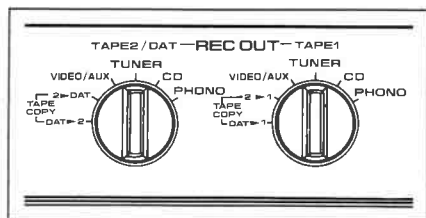
アンプのボリューム・バランスコントロール・トーンコン  
トロール等で音量や音質を調整してください。

# 操作のしかた／録音

1. アンプ、テープデッキ、および録音したいソースの機器の電源を入れてください。



2. REC OUT セレクターで録音したいプログラムソースを選びます。  
〔TAPE 1で録音する場合は、REC OUT 1で選択  
TAPE 2、DATで録音する場合は、REC OUT TAPE 2/DATで選択〕



3. 録音したいプログラムソースを、スタートさせます。



4. スピーカーまたはヘッドホーンで、モニターするためインプットセレクターで録音したいプログラムソースを選びます。



5. テープデッキをスタートさせ、録音を始めます。  
(テープデッキの操作は、テープデッキの取扱説明書をご参照ください。)



6. 3ヘッド搭載のテープデッキをご使用の方は、インプットセレクターで、“TAPE 1、2、DAT”の録音中のボタンを押してください。テープデッキの“TAPE/SOURCE”の切換スイッチ操作で、録音直後の音とプログラムソースの音の比較モニターができます。

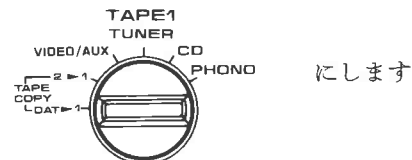
## テープのダビングについて

REC OUT セレクターの切換えで、テープからテープへのダビングが4通りできます。

1. **テープデッキ 2** から **テープデッキ 1** にダビングする場合  
REC OUT TAPE 1のセレクターを



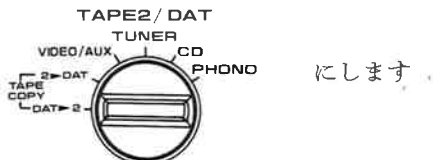
2. **DAT** から **テープデッキ 1** にダビングする場合  
REC OUT TAPE 1のセレクターを



3. **テープデッキ 2** から **DAT** にダビングする場合  
REC OUT TAPE 2/DATのセレクターを

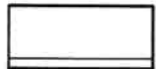
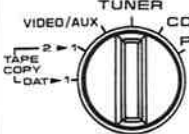
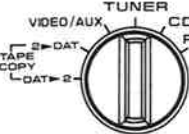
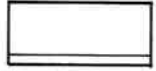
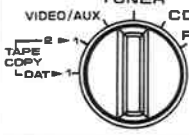
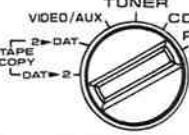

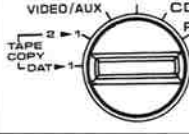
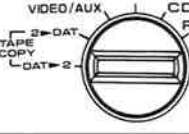

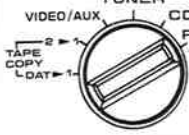
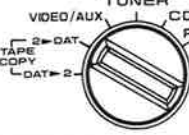


4. **DAT** から **テープデッキ 2** にダビングする場合  
REC OUT TAPE 2/DATのセレクターを



## ■多機能な REC OUT セレクターについて（トリプルアクション、テープのダビング）

インプットセレクターで選んだプログラムソースを聴きながら、別のプログラムソースを REC OUT セレクター TAPE 1 または TAPE 2 / DAT で選び録音することができます。主な例は、下表のようになります。

	インプットセレクター	REC OUT TAPE 1	REC OUT TAPE 2 / DAT
FM/AM を聴きながら、同時に 3 台のデッキに録音する。	<p>— TUNER</p> 		
CD を聴きながら、レコードを TAPE 2 と DAT へ録音し、同時に FM/AM を TAPE 1 へ録音する。	<p>— CD</p> 		
レコードを聴きながら、DAT から TAPE 1 へ、DAT から TAPE 2 へダビングする。	<p>— PHONO</p> 		
CD を聴きながらレコードを TAPE 1 へ録音し、同時に TAPE 2 から DAT へダビングする。	<p>— CD</p> 		

この他にもインプットセレクターと REC OUT セレクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に三重に楽しむことができます。

# 故障かな、と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りの YAMAHA 電気音響製品サービス拠点へ、お問い合わせ、サービスのご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUME ツマミが絞られている。	VOLUME ツマミを右(時計方向)に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全	接続を確認してください。
インプットセレクターを切り換えてもCD以外の音は出ない。	CD DIRECT スイッチがONになっている。	CD DIRECT スイッチを押し解除してください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	BALANCE ツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCE ツマミを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
	MCカートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
レコード再生時、VOLUME をあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
MCカートリッジの音が小さい。	PHONO セレクターがMMの状態になっている。	PHONO セレクターをMCにセットしてください。
VOLUME をあげても音量があまり大きくならない。	MUTING スイッチがONになっている。	一度音量を最小にし、MUTING スイッチを押し解除してボリュームツマミで適切な音量に合せて下さい。

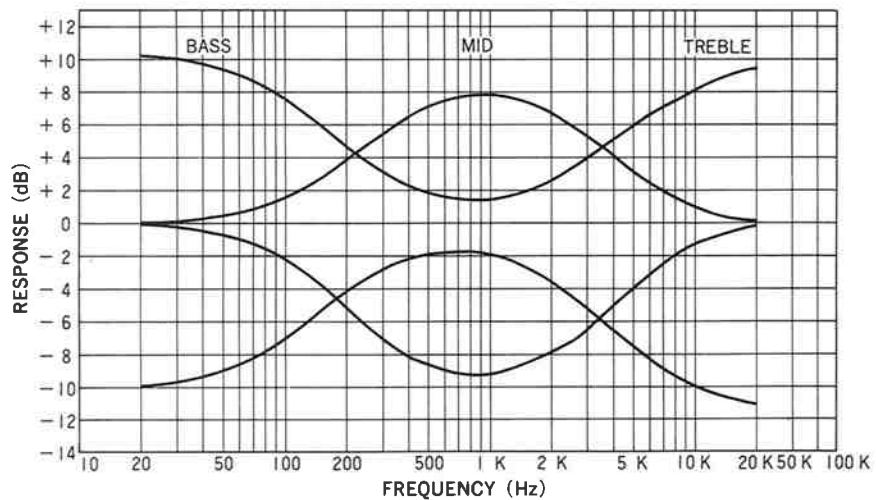
# 参考仕様

定格出力 (両 CH 駆動)	
8 Ω, 0.003% (20 Hz~20 kHz)	130 W + 130 W
6 Ω, 0.005% (20 Hz~20 kHz)	150 W + 150 W
ダイナミックパワー (片 CH 当り)	
1 kHz, 4 Ω/6 Ω/8 Ω	340 W/264 W/180 W
パワーバンド幅	
0.03%, 65 W/8 Ω	10 Hz~50 kHz
ダンピングファクター	
1 kHz, 8 Ω	150 以上
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MC	160 μV/220Ω
PHONO MM	2.5 mV/47kΩ
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE/DAT	150 mV/47 kΩ
MAIN IN	
最大許容入力	
PHONO MC (1 kHz, 0.01%THD)	10 mV
PHONO MM (1 kHz, 0.01%THD)	160 mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150 mV/470 Ω
ヘッドホンジャック出力	
0.003%	0.93 V/8 Ω
周波数特性 (20 Hz~20 kHz)	
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE/DAT	+0 -0.5 dB
RIAA 偏差	
PHONO MC (20 Hz~20 kHz)	±0.3 dB
PHONO MM/MC (20 Hz~100 kHz)	±0.5 dB
全高調波歪率 (20 Hz~20 kHz)	
PHONO MC → REC OUT (3 V)	0.005%
PHONO MM → REC OUT (3 V)	0.003%
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE/DAT → SP OUT (130 W/8 Ω)	0.003%

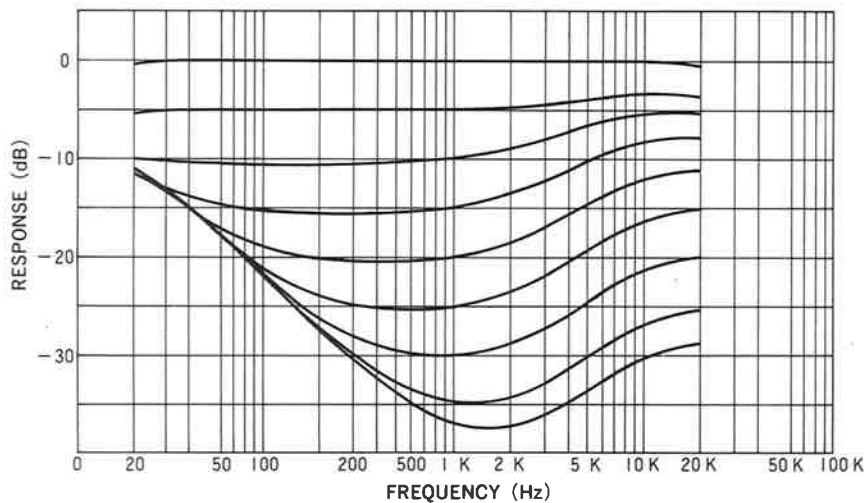
混変調歪率	
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE (130 W/8 Ω)	0.002%
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE (1 W/8 Ω)	0.003%
SN 比 (IHF A ネットワーク、入力ショート時)	
PHONO MC (250 μV)	70 dB
PHONO MM (2.5 mV)	86 dB
CD/TUNER/VIDEO AUX/TAPE/DAT	105 dB
残留ノイズ	
AUX → SP	200 μV 以下
MAIN IN → SP	50 μV 以下
チャンネルセパレーション	
VOL (-30 dB 1 kHz)	70 dB 以上
トーンコントロール	
BASS	±10 dB (20 Hz)
ターンオーバー周波数	350 Hz
MIDDLE	±10 dB (1 kHz)
TREBLE	±10 dB (20 kHz)
ターンオーバー周波数	3.5 kHz
フィルター特性	
SUBSONIC FILTER	15 Hz, -12 dB/oct
HIGH FILTER	10 kHz, -12 dB/oct
コンティニューアスラウドネスコントロール	
最大補正量 (聴感補正カーブによる)	-40 dB (1 kHz)
定格電源電圧、周波数	AC 100 V、50/60 Hz
定格消費電力	260 W
AC アウトレット	
SWITCHED (連動) × 2	Total 100 W max
UNSWITCHED (非連動) × 1	200 W max
外形寸法 (W×H×D)	435×165×416 mm
重量	17.5 kg

※参考仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

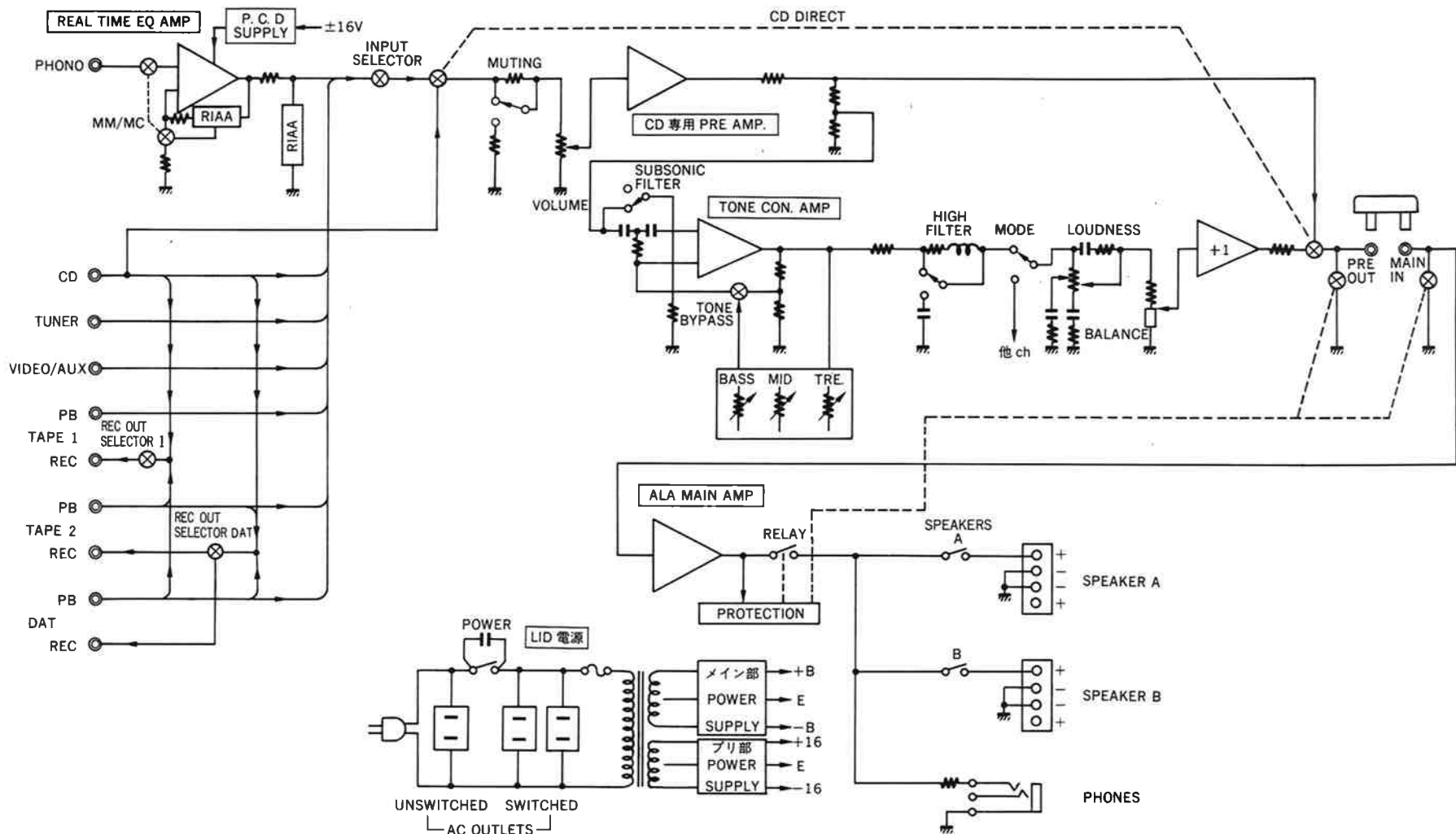
● トーンコントロール特性



● コンティニアスラウドネス特性



# ブロックダイアグラム





# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスの依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(0222)36-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

## ■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 ステレオ北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F ステレオ仙台営業所 TEL(0222)23-1376
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F ステレオ首都圏営業所 TEL(03)255-5691 ステレオ神田営業所 TEL(03)255-6767 ステレオ北関東営業所 TEL(03)255-1825 ステレオ東京営業所 TEL(03)255-2302
名古屋	〒464 名古屋市千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 ステレオ名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 ステレオ関西営業所 TEL(06)647-6411 ステレオ大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 ステレオ中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ステレオ九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ステレオ事業部 国内営業部 TEL(0534)60-3421

## 日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

ステレオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421  
管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。

